

文化施設におけるホール以外の場を用いた公演活動に関する研究 － 公演内容の傾向と課題点を通して －

Study on the performance activity using a location other than the hole in the cultural facilities Through the trend of performance content and issues

○西島慧子¹, 佐藤慎也²*Satoko Nishijima¹, Shinya Satoh²

Open space, such as cultural facilities foyer and lobby have been effectively used as a place of creative dissemination of art. Cultural facilities have made the place of a point of contact which becomes a daily familiar existence through the public performance of an open space. This study on the performance activity using a location other than the hole in the cultural facilities. I investigated a the trend of performance content and issues at open space. As a conclusion, firstly, There was a difference every each facility at target person, performance time. Secondly, performances were being considered to sound performance of open space in advance from interfering with other facility users.

1. 研究の背景と目的

芸術の創造発信の場である文化施設では、ホール以外のホワイエやロビーなどのオープンスペースが有効利用されている。舞台鑑賞者だけでなく、鑑賞体験が少ない地域利用者を対象としたコンサートや、飲食しながらの鑑賞など、ホール内では実施が難しい公演へ積極的に活用されている。

2013 年に告示された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」^{注1)}では、「現代社会においては、劇場、音楽堂等は、人々の共感と参加を得ることにより『新しい広場』として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。」とあり、今後「新しい広場」として、文化施設のオープンスペースをどのように開き、運営者側が活用しやすい場として計画するための考慮が必要になる。

2. 研究の目的

ホワイエ、ロビーなど、ホール以外の場における公演時の利用実態、実施にあたっての課題点を抽出することにより、文化施設のオープンスペース計画の指針を検証することを目的とする。

3. 研究の対象と方法

今年度、オープンスペースでの公演が予定されている文化施設を対象とし、公演実施状況の観察調査を行うことができた 11 施設（表 1）と、そのうち施設管理者へのインタビューを行った 6 施設（表 3）について考察する。

4. 考察結果

4-1. 公演概要と傾向

調査対象の公演出演者は、公募と企画運営者の選出に分かれる。公演内容の傾向としては、公募制を取り入れている館では、地域のアマチュアを含む音楽家の発表の場の提供として実施している。出演者の選出を行っている館では、ホール内の公演に興味関心を持ってもらう機会として、若手の演奏家のコンサートや、ホール内で鑑賞することが難しい未就学児童を対象とした公演を行っている。

実施場所はロビーでの実施が最も多く（6 館）、客席は設置せず、カーペットの床に座り実施する未就学児童対象の公演（ST）の実施など、30～80 席程度の小規模で行っている。また、ホワイエで実施してい

表 1 対象施設概要

略称	KH	SAT	KF	FOH	IH	HMH	FH	ST	BH	KOH	CSA
施設名 (愛称)	藤市民会館 (コンクレホール)	彩の国さいたま 芸術劇場	富士見市民 文化会館 (キラリ☆ふじみ)	福生市民会館	八王子市 芸術文化会館 (いちようホール)	八王子市 南大沢文化会館	青葉区民 文化センター フィリアホール	横浜市 磯子区民文化センター (杉田劇場)	多治見市 文化会館 (パロー文化ホール)	各務原市民会館	みよし市 勤労文化会館 (文化センターサンアート)
所在地	埼玉	埼玉	埼玉	東京	東京	東京	神奈川	神奈川	岐阜	岐阜	愛知
開館	1974 年 11 月	1994 年 10 月	2002 年 11 月	1977 年 6 月	1994 年 6 月	1996 年 8 月	1993 年	2005 年 2 月	1981 年 4 月	1977 年 10 月	1993 年 7 月
延床面積 (㎡)	5,992	23,855	7,358	6,985	14,795	6,412	2,796	2,999	7,552	4,651	12,051
ホール席数	ホール：706	大ホール：776 音楽ホール：604 小ホール：346 映像ホール：150	メインホール：802 マルチホール：255	大ホール：1062 小ホール：260	大ホール：802 小ホール：288	主ホール：500 交流ホール：270	ホール：500	ホール：318	大ホール：1304 小ホール：394	市民会館：1062 文化ホール：502	大ホール：1033 小ホール：421
併設施設 複合施設	公民館 勤労青少年ホーム			公民館		図書館 保健福祉センター 生涯学習センター 市民センター	商業施設	商業施設 住宅棟		公民館	茶室 日本庭園
ホール以外 の貸施設	会議室 宴会場 多目的ホール	稽古場 練習室	展示・会議室 展示室 アトリエ スタジオ	集会室 リハーサル室	練習室 展示室 創作室 茶室 会議室	展示多目的室 リハーサル室 練習室 会議室 幼児室	練習室 リハーサル室	ギャラリー リハーサル室 会議室 練習室	会議室 和室 練習室 展示室		レセプションホール スタジオ 軽運動室 応接室 研修室 会議室 和室

1：日大理工・職員・建築 2：日大理工・教員・建築

表 2 公演概要

施設名	公演内容	実施場所	実施頻度・曜日	客席		出演者		対象者	公演時間帯			公演時間
				形態	客席数	公募	選出		午前	午後	夜間	
KH	コンサートライブ	ホワイエ	月 1 回土曜日	椅子	30	○		一般来場者		○		3 時間 (出演者数によって変動)
SAT	コンサート	情報プラザ	月 1 回土曜日	椅子 クッション席 (階段)	280 ～ 300		○	一般来場者 (ファミリー向け)		○		40 分
KF	ダンス 演劇・舞踊公演	アトリエ カスケード	月 1 回土曜日 (ダンスカフェ) 土日・祝日 (演劇・舞踊公演)	椅子 クッション席 (床)	アトリエ実施時: 15 ～ 30 カスケード実施時: 100 ～ 150		○	一般来場者	○	○	○	1 時間
FCH	コンサート	ロビー カフェスペース	月 1 回日曜・祝日	椅子	カフェスペース: 20 程度 ロビー・スペース: 60 程度		○	一般来場者		○	○	1 時間 30 分
IH	コンサート	ロビー	毎週土曜日	椅子	50	○		一般来場者	○			1 時間 30 分
HMH	コンサート	ロビー	月数回平日・土曜日又は祝日	椅子	43	○		一般来場者		○		30 分
FH	コンサート	ロビー・ホワイエ	年 3 ～ 4 回平日	階段に着座	無し (観客 150 ～ 200 人程度)		○	未就学児童	○			45 分
ST	コンサート パフォーマンス	ロビー	月 1 回平日	床に着座	無し (観客 20 人程度)		○	未就学児童	○			20 分
BH	コンサート	ホワイエ	月 1 回金曜・土曜日又は祝日	椅子	150 程度		○	一般来場者		○	○	1 時間
KCH	コンサート	ホワイエ	月 1 回平日	椅子	100 ～ 130		○	一般来場者 (小学生以上)		○	○	1 時間
CSA	コンサート	ロビー	月 1 回平日	椅子	70 ～ 80	○		一般来場者			○	1 時間

る館 (3 館) では、100 席以上の客席を設置していることがわかった。

実施内容の詳細は、表 2 より、KF はダンス、演劇公演を行っているが、その他の館では、コンサート公演を行っている。頻度としては、月 1 回の実施を定期的に行っている館 (8 館) が最も多く、休日に実施していることが多かった (土日・祝日実施が 5 館、平日実施が 3 館)。そして、毎週実施 (IH)、月に数回実施 (HMH) と実施頻度が多かった館では、出演者は公募制であった。

公演時間は、1 時間～1 時間 30 分が多かった (6 館)。特に、対象者が未就学児やファミリー向けの場合、公演時間が 20 ～ 40 分と短く、児童が集中できる時間設定を行っていると考えられる。

4-2. 課題点

企画運営者にインタビューを実施し、ホール以外での公演実施にあたっての課題点を抽出した (表 3)。

KCH 以外の館は、公民館などの併設施設がある、または、公演時に会議室などの一般利用が行われている。そのため、課題点の多くが、公演時の音が他の施設利用者への妨げになっていないかという点であった。対策として、和太鼓やドラムなど響く打楽器の演奏の制限や、電氣的な音響拡声装置を利用しないなど施設の環境を考慮し、生音を活かした公演を実施している。

設営や公演前の課題点に関しては、照明や音響機材の電源容量が不足し、離れた舞台裏から延長コードを繋げなくてはならないといった点があった。特に、KF では館の中心に位置するカスケードを利用したダンスや演劇公演といった大掛かりな公演を実施しており、本番前の稽古場所の確保に苦慮していた。

5. 結論とまとめ

ホール以外の場合を用いた公演実施には、その他の施設利用者へ配慮することが課題となる大きな点であっ

表 3 課題点インタビュー結果

KH	・ホワイエ公演時の音量が、隣接する公民館や貸しスペース利用に支障がないか配慮しなくてはならない点。
KF	・夜間公演時、照明が無いため、マルチホールなど会場から離れた場所から電源を引っ張らなくてはならない点。 ・カスケードにて実施をする際は、オープンスペースが裏動線などになるため、全館借り切った状態での実施をしなくてはならない点。 ・稽古場が無いため、他の一般貸出を行っている部屋で実施するため、大きな道具など移動しながら各部屋をめぐり使用しなくてはならない点。
FH	・ホワイエでは楽器・機材の置き場が無いため、企画編成の幅が限られる。 ・ピアノがピアノ庫からホワイエへ移動ができない点。
BH	・舞台設備や道具に触れないようにすることや、危険な場所に入らないようになど配慮する点と、ホワイエ空間を気軽に人が集える場所にするための両立の難しさ。 ・館前の国道を走る車に出演者の気が散るため、パーテーションで屋外があまり見えないようにガラス壁面を囲うことがある。
KCH	・出演者の要望に沿って、ホワイエでできる限りの会場構成を行っているため特に課題点はない。
CSA	・他の施設への音を配慮しなくてはならない点。 ・会場は吹き抜けのため響くが、フラッターエコーが出やすい平行面が多い点。

た。また、ホワイエやロビーの場を鑑賞のきっかけづくりや地域住民の発表の場として使うなど、どのような場としてオープンスペースを開いていくかによって、対象者や公演時間に差があることがわかった。今後は、実施会場と併設施設の関係によって配慮しなくてはならない点、公演実施の際の会場設営の詳細、運営・準備時の状況を総合的に考察する。

注

注 1) 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律 (2012 年法律第 49 号) 第 16 条第 1 項の規定に基づき文部科学大臣が定める「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」(2013 年文部科学省告示第 60 号) が 2013 年 3 月 29 日付けで告示された。

参考文献

- [1] 浦部智義：公演時以外の滞在者の分布と意識から見た劇場・ホールを持つ公立文化施設内のオープンスペースに関する研究—ホワイエを開放している施設における調査研究—, 日本建築学会計画系論文集, 第 75 巻, 第 647 号, pp.57-66, 2010.1.
- [2] 小川利和、勝又英明：劇場・ホールのロビー・ホワイエにおける公演時以外の利用に関する調査研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 539 号, pp.127-131, 2001.1.
- [3] 勝又英明、小川利和：劇場・ホールのロビー・ホワイエにおける付帯的サービスに関する調査研究, 日本建築学会関東支部研究報告集, 第 68 号, pp.401-404, 1998.2.
- [4] 田中暁之、清水裕之、有賀隆、大月淳：公立文化施設の施設内オープンスペースの使われ方に関する研究—愛知県内の公立文化施設のケーススタディーを通じて—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.437-438, 2000.9.